

ごみいった話 ～小村大の困った。困った。～

えんとつから黒い煙? の正体

木枯しが吹く頃になると、空気が澄み、美しい青空の日が多くなります。

この季節「清掃工場のえんとつからモクモクと煙が出ている。特に夜になると勢いが強く、煙が真っ黒だ。夜陰にまぎれて、遠うごみを燃やしているのではないか?」という問い合わせをいただくことがあります。表紙の写真を見ても、きれいな夕日をバックにえんとつから煙が…!? 実は、えんとつから出て見えるのは水蒸気で、冷たい外気に触れて液体の微粒子となって白く見えるのです。サカンの湯気が白く見えたり、寒い日に、息を「ハート!」と吐くと白くなります

が、それと同じ現象です。また見る角度により、特に逆光の場合など黒っぽく見えることがありますが、決して煙をモクモクと出しているわけではありません。

えんとつさんの仕事は、みなさんのご家庭から出るごみ(一般廃棄物)と、家庭ごみと一緒に処理することができる商店や小さな事業所のごみ(事業系一般廃棄物)を処理することです。夜、隠れてこっそりと特別なごみを燃やしたり、燃やし方を変えたりすることはありません。どうぞご理解下さい。

平成11年度 ダイオキシン類の測定結果

単位:1ng-TEQ/Nm³

焼却炉からの排出濃度

昨年の6月～7月にかけての測定では、施設での対策等によって前年度より低減し、厚生省の平成14年12月からの規制値(1ng-TEQ/Nm³)を下回りました。今後も更に改善を進めています。

	平成10年度	平成11年度
3号炉	0.64	0.34
4号炉	0.84	0.50
5号炉	1.2	0.52
国の規制値	H14.11.30まで80 H14.12.1から1	

前年度調査から今回までには、以下の対策を行いました。

- ・3号炉、4・5号炉とも、電気集じん器(EP)の荷電を強化し、ばいじんを捕らえる能力を向上させました。
- ・EP入り口の排ガスの温度(前年度260℃)を下げました。3号炉は250℃、4・5号炉は230℃へ。今後の目標温度は200℃です。

単位:1pg-TEQ/m³

大気中のダイオキシン類(コプラナー-PCBを含む)濃度

昨年の8月3日(火)午前10時から24時間、立川市と共同して6ヶ所の調査地点で測定を行いました。環境庁の大気環境濃度指針値は、0.8pg-TEQ/m³ですが、全て下回っています。

調査地点	濃度
東大和市立第二小学校	0.20
中島地域センター	0.18
上水新町地域センター	0.19
立川市立幸学童保育所	0.17
こぶし会館	0.21
立川市立第八小学校	0.16
国の指針値	0.8

(注) コプラナー-PCBを含むが除外。

(単位について)

えんとつから排出される濃度は厚生省の規制値があります。また、大気中の濃度は環境庁の指針値があり、それぞれと比較してみると、基準となる単位が3桁違います。1ng(ナノグラム)は10億分の1グラム(10⁻⁹g)、1pg(ピコグラム)は1兆分の1グラム(10⁻¹²g)です。TEQは2,3,7,8-四塩化ダイオキシンに等価換算した濃度。1Nm³は1ノルマル立方メートルを示し、標準状態(0℃、1気圧)における気体1m³をいいます。

西暦2020年、石油と天然ガスの埋蔵量は残すところわずかとなり、エネルギー価格が急上昇した。

電気は、原子力から太陽光、風力、地熱等の発電に変わったものの、発電量が足らず、月に何度かは停電が起きる。自家用車は本当の贅沢品であり、1日のドライブで使うガソリン代が1週間分の給料に相当する。

しかし悪いことばかりではない。石油から作られるプラスチック、電気を大量に使って作られるアルミ缶などは貴重品扱いで、ボイ捨てする人などいない。ごみの中の金属なども高く売れるので、市町村にとって「ごみ問題」は、利益

えんとつさんの初夢

のあがるごみをいかに確保するかということになった。一方人々の暮らしはむしろゆったりとして、大切にものを使い、遠くに出かけるかわりに近所の公園ですごしたり、身近な縁を楽しむことが増え、家族のきずなも深まったようだ。飽食の時代は去り、貴重な食べ物を無駄にする人はいない。わずかに出てくる調理くずも、庭などで育てている植物の肥料として利用している。良いこと悪いこと色々あるけれど「ものがあることが幸せ」とみんなが考え、大量のものを消費しては捨てていたあの頃に比べれば、今は幸せなのかも……と思った瞬間に目が覚めた。2000年の初夢。

平成10年度 組合決算について

平成10年度の決算が11月30日の議会(11月定例会)で認定されました。

歳入で、18億2,113万5,561円。

歳出で、17億7,654万6,200円。差引4,459万4,941円が11年度に繰越されました。



「分損金及び負担金」の3市の負担額

小平市	914,459,000円
東大和市	441,428,000円
武蔵村山市	334,113,000円

平成8年度のごみ焼却入量の実績に基づき負担しています。



主な事業

- (1) ごみ処理事業
 - 可燃ごみ(含破砕可燃)は焼却し、粗大ごみ・不燃ごみは焼却処理のうえ(可燃成分は焼却)、最終処分場へ搬出した。
 - ダイオキシン対策として、4号炉二次空気改善工事を行った。
 - 施設の定期的な補修整備を進め、安定稼働に努めた。
 - 焼却灰中重金属除去装置を設置し、焼却灰の質的向上を図った。
- (2) 施設対策
 - 作業環境測定を行った。
 - アルミくずの資源化を図った。
 - 粗大ごみ処理施設からの集塵装置の点検について、調査・対応を行った。
 - 住民協議機関として「循環型ごみ処理施設検討協議会」、「小平・村山・大和衛生組合のごみ処理事業に関する連絡協議会」を設置した。
 - 広報誌を発行し、情報提供により、組合事業の普及・啓発を行った。
- (3) その他
 - 排ガス中のダイオキシン類の測定調査を行った。

VOICE

編集後記

懇談会が解散終了しました。委員のみなさま、大変お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。清掃工場の建て替えはごみ大きな事業です。近年、ごみ問題も広く社会問題として認知されるようになりましたが、私達みんなの努力の積み重ねで解決することはできません。新しいことにダイオキシン、環境水害、資源化廃棄物などの問題は、技術の進歩によって徐々に改善しつつあります。しかし、科学の進歩によってダイオキシンなどの物質が新たに発見されて大きな問題となる可能性もあります。

もともとシンガポール解決方法は「ごみを出さない」ことです。一方で資源と環境の事業です。これだけ文明が発達した社会ではなかなか難しいです。でも、動き出さなくてはなりません。

懇談会は様々な立場の方で構成され、それぞれの立場からの意見が出されました。ごみ問題の解決には、役割分担はあるものの、立場を超えて私達みんなが協力してやっていくという気持ちで、それに向けての実際の行動が大切なのだと感じました。

では、また次号でお会いしましょう。

小平・村山・大和衛生組合の沿革
小平・村山・大和衛生組合は、ごみも共同処理するため、一部事務組合として昭和40年に発足し、昭和41年から焼却施設を開設。現在に至っています。

発行元
小平・村山・大和衛生組合
住所／小平市中島町2番1号
電話／042-334-1434
平成12年1月発行



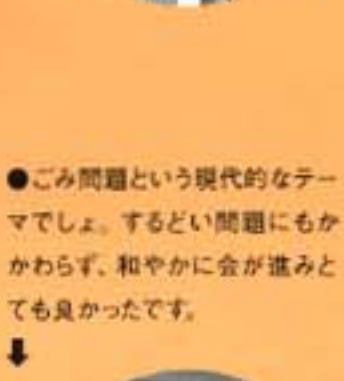
●懇談会は、民主的に運営されてフェアな会だったと思います。

↑
●みんなが自分のそばに焼却施設があったらという意識で考えなくてはならないと思います。

●女性の委員の方が大変勉強しておられてびっくりしました。我々、廃棄物業界の人間ももっと勉強しなくてはと思いました。



↑
●今までも関心はありましたが、物を書いて出したり、意見を述べることで考えが整理されます。すごく勉強になりました。



●ごみ問題という現代的なテーマでしょ。するどい問題にもかかわらず、和やかに会が進みとても良かったです。



↑
●思っていた以上に要望書など受けてくれるのがとても良かった。



●ごみ処理施設の建て替えで「懇談会で話し合ってた」というやり方は数多くないのでは。他の自治体も見習った方がいい。

●ダイオキシンをはじめ、有害物等で地域住民に迷惑をかけるという事が基本です。



小平・村山・大和衛生組合のごみ処理施設(焼却と焼砕)は、小平市・東大和市・武蔵村山市の約32万人のごみを毎日処理している大切な施設です。老朽化してきたこの施設の将来のあり方を検討するために、懇談会では昨年12月から約1年間かけ、11回にわたり検討をしていただきました。その懇談会の最終報告が、ここでまとまりましたので、紹介いたします。

懇談会では、各テーマについて各委員さんに様々な立場から事前に意見を出していただき、その意見の中から同様の意見ごとにグループ化し図形にまとめ、それを文章化するという方法でまとめて行きました。さらに、その文章を

懇談会について、 終了後に委員さんに感想をいただきました。

寺嶋座長のあいさつ

ごみ問題を解決するには、まず人々の環境意識を高め、社会全体の価値観を変えていき、発生抑制やリサイクルを進め、ごみができるだけ出ないような社会づくりをすることがまず必要です。しかしそれでも、今のところはどうしてもごみになってしまう部分があります。そうして出てくるごみを処理しているのが小平・村山・大和衛生組合です。組織市及び衛生組合では、施設の老朽化や新しい時代に求められる性能の確保の必要性などのため、平成18年度稼働を目標に衛生組合の施設更新を計画しています。

今後、衛生組合におかれましては、この報告内容を尊重して施設更新に向けての事業構想、施設計画を策定するとともに、今後の施設運営等にも生かしていただけるものと存じております。

また、「ごみゼロプラン」の実現にあたり関連する事項を取りまとめさせていただきますので、組織市におかれましても、この主旨をご理解の上、今後の施策展開に役立てていただけますようお願い申し上げます。



循環型ごみ処理施設検討懇談会名簿(委員15名)

所属	職名	氏名
学識経験者	(社)全国都市清掃会議技術部長	○寺嶋均
小平市 審議会委員	審議会副会長	白根和子
	審議会公募市民代表	宇都宮弘昌
東大和市 審議会委員	消費者の代表	町田道子
	資源物取扱い業者	近江昭
武蔵村山市 審議会委員	廃棄物収集運搬業者	比留間久仁男
	市消費者団体連絡員	林治代
周辺地域 住民代表者	中島一審地自治会代表	堀山一明
	富士見台自治会会長代理(会計係)	中澤昌夫
	中島町AP自治会代表	岡七郎
	幸町6丁目自治会会長	水越孝
	幸町団地自治会会長	今井利郎
公募による市民	主婦(小平市)	石田朋子
	主婦(東大和市)	斎藤紀矩
	主婦(武蔵村山市)	新島子

(注)○：座長 *：第4回懇談会までは山田司氏



●地元から「次に建て替える時は誰の出ないものを」という要望があります。しかし、懇談会委員として「実際にそれをどうすればよいのか」を検討するにあたって知識が少なく、何冊も本を読み勉強しました。



●懇談会の最終報告は、これからの環境を大事にしたものと思う。ぜひ実現して欲しい。

●これから重要なことは、地域住民の声をどう反映するかにあると思う。



↑
●色々なごみの問題点を勉強させていただいたのが良かった。

●公募したときには色々知っていたつもりだったが、委員になって勉強したこと、分かったことがずいぶんあり、参加させていただいて本当に良かったです。



↑
●ごみを出す側としては、ごみを減らし、なるべく燃やさないことが大切。



↑
●住民代表という立場で参加させていただきましたが、非常に有意義でした。施設がどういったものになるかは、これからの課題なので、住民の方でも考えていかなくてはなりません。



●組織市とごみ処理場が隔たったものではなく、相互に連携を持ちながら適正に処理して、燃焼から有害物を出さないよう、また最終処分場も自然保護されたものであってほしいです。



懇談会の報告がまとまりました!!

わたしたちの役割分担

市民・事業者のみなさん

- すぐ、ごみになるものを作らない、買わない
- 大切な資源として再利用する
- どうしても、ごみとして出す時は減量化する

小平市、東大和市、武蔵村山市(ごみゼロプラン)

- 発生するごみの量を減らす
- 分別収集により、ごみに含まれている資源をマテリアルリサイクル(ものの素材を生かしてリサイクル)

小平・村山・大和衛生組合

- ・それでもどうしてもごみになってしまうものについて、サーマルリサイクル(ごみのエネルギーを熱として回収)
- ・平成18年度を目標に施設の建て替え

懇談会報告の概要

1 施設の目標とその実現方策

平成10年度に中間報告で提言された9項目について、今年度は実現するための方策が詰められました。「このような考え方で施設を検討すること」という理念にあたる中核部分です。

- | | | |
|-------------------|---------------------|------------------|
| ① 公害、環境汚染を起こさない施設 | ④ 最終処分量を減量化する施設 | ⑦ 安定して確実に処理できる施設 |
| ② 地球環境にやさしい施設 | ⑤ 施設周辺住民との良い関係を持つ施設 | ⑧ 維持管理しやすい施設 |
| ③ リサイクルの推進を図れる施設 | ⑥ 環境学習、情報発信の機能を持つ施設 | ⑨ 経費を節減できる施設 |

2 衛生組合における処理のあり方

提言された9項目を基に、より具体的な施設の処理機能のあり方について検討しました。施設の具体的な姿の部分です。

- | | |
|----------------------|----------------------|
| ① 処理の対象について | ⑤ プラント設備 |
| ② 施設規模と系列数 | ⑥ 管理体制と情報公開 |
| ③ ごみのサーマルリサイクルについて | ⑦ 環境学習、市民活動及び地域振興の拠点 |
| ④ ごみ処理施設におけるリサイクルの推進 | ⑧ 施設の建物、道路及びその配置 |

3 今後の進め方

今後の進め方としては、できる限り柔軟性のある計画を策定し、今後ごみ減量が進んだ場合にはそれを反映できるようにする。また、施設の整備にあたっては、関係する調査、計画等について、組織市市報や組合広報「えんとつ」をはじめとする各種媒体によって広く情報提供を行い、市民フォーラムなど市民の意見を聞く場を設ける。さらに、「小平・村山・大和衛生組合ごみ処理事業に関する連絡協議会」などで施設周辺住民等と話し合いの場を持つ。また、計画にあたっての専門的・技術的事項については、専門家を含めた検討組織により具体的な検討を進める必要がある。

4 ごみゼロプランの実現にあたって今後考えられること

組織市のごみゼロプランとも密接な関係があるため、その実現にはどうすれば良いかということについて委員から組織市への要望としてまとめられました。

- ① 市民や事業者の意識やモラル、ライフスタイルの変革
- ② リサイクル事業の展開
- ③ ごみ減量を進める社会システムの実現

市民フォーラムを開催します!

組織市の市民、周辺地域住民の方々に対象とした、「懇談会最終報告」「循環型施設更新事業構想」の報告会を開催します。また詳しい内容は未定ですが、組織市と衛生組合で3月に計4回開催を予定しています。次号のえんとつ全地域で詳細をお知らせいたします。

《日程と会場》

- 3月4日(土)午後1時30分から3時開催。小平市中央公民館
- 3月11日(土)午後1時30分から3時開催。東大和市市民会館
- 3月18日(土)午後1時30分から3時開催。武蔵村山市市民会館
- 3月25日(水)午後7時から2時開催。衛生組合員会室